

来て見て永平寺町

# 観光ボランティアニュース

永平寺町観光ボランティアガイドの会 広報紙

平成26年8月15日 発行

<発行元>

永平寺町観光ボランティアガイドの会  
(永平寺町役場商工観光課内)

永平寺町松岡春日1-4 (TEL 61-3921)

## ツアーレポート

### 女性限定！美を極めるツアー開催

美人祈願と美酒・美食の旅ツアー 6月7日

「美」をテーマにした本ツアーが県観光連盟主催で開催されました。参加者は県内の女性11名。

えち鉄観音町駅に集合し、本会会員の案内のもと、摂取寺、昌蔵寺、天龍寺を見学しました。摂取寺にはかつて参拝した女性が美しく変貌したという伝説があり、美人祈願と厄除けの観音様として親しまれています。次に見学した田邊酒造では、酒造りについての説明をお聞きしたあと、おいしい冷酒を試飲させていただきました。松岡地区はかつて造り酒屋が多く存在したそうです。

天龍寺を見学したあと、えち鉄に乗って永平寺口駅に移動し、cafe chottoで特製「美美御膳」をいただき、勾玉づくりの体験も行いました。永平寺町の魅力が盛りだくさんのツアー、参加者に満足してもらえたのではないのでしょうか。(西)



天龍寺にて

## 現地研修会のご案内

### 11月開催予定！乞うご期待！

本会会員が町内の神社・仏閣を案内する研修を行います！今回は上志比地区で、吉峰寺などを訪問する予定です。

詳しいコース内容や日時が決まり次第、HPや広報誌などでお知らせします。吉峰寺は道元禅師が永平寺を開く前に、滞在したお寺です。ぜひ、ご参加ください！

【対象】 町内の方

【日時】 平成26年11月頃

【場所】 上志比地区の神社・仏閣  
(吉峰寺、興行寺など)



興行寺



吉峰寺

## ツアーレポート

### 昌蔵寺でほんこさん料理に舌鼓

松岡室町散策ツアー 3月18日

松岡室町散策ツアーが開催され、町内の希望者が参加しました。

本会会員による解説や、昌蔵寺のご住職さんによる講話を聴いたあと、報恩講料理をいただきました。報恩講料理とは、親鸞聖人に感謝するもっとも重要な行事にいただくお料理です。あいにくの雨にたたられましたが、参加者の方々に大変喜んでいただきました。室町は現在の芝原地区になります。京都の室町にも縁のある地名のようです。(西)



昌蔵寺での講話



報恩講料理

## 研修会レポート

しらやま ひ め

### 白山比咩の郷でガイドの研修

先進地視察研修 6月25日

#### 地域振興に結び付ける仕組みづくりも…

白山市鶴来地区を中心に現地案内研修が行われ、参加した13名は貴重な体験をしました。

この地はかつて「白山連峰合衆国」と言われた地域。案内してくださったのは、石川観光ボランティアガイド連絡協議会事務局長の辻貴弘さん。とかく歴史偏重になりがちなガイドの在り方を「エンターテインメント性」を持たせることが大切！と。

併せて「地域振興と一体となった活動」が不可欠であり、話題作りの仕掛け等にも不断の努力が必要と感じました。(大関)



白山市金釧宮にて

### 人柱地蔵堂

松岡と御陵の間に流れる大川（九頭竜川）の支流が兼定と領家の間に流れていました。裏川と呼ばれていました。大雨が降るたびに大きな水害に見舞われることしばしばで、特に寛政元年の6月の大雨は大変大きな被害をもたらしたようです。

このような大きな水害から逃れるためには、神仏に頼るほかはないということで人柱を立てて堤を築こうと盆の16日たまたま通りかかった籠売りを人柱として堤として築いたそうです。籠売りはたいそう相撲好きだったので、後々この堤で相撲を取ってほしいと遺言を残したそうです。村の人たちはお堂を立てて毎年お盆の16日には相撲をとり籠売りの冥福を祈ったそうです。

人柱となったのはお相撲さんだという説もあります。現在お堂は大谷川沿いに建てられていますが、最初は反対側の相撲場が見渡せるところに建っていたようです。（吉田陽）



人柱の解説碑



地蔵堂

### 浄法寺の大火

大正3年4月3日未明、民家から出火。のちに旧永平寺町は毎月3日を防火の日と決めました。

この大火を知った三河の国吉田村（現在の愛知県豊明市）徳雲寺の住職 颯田本眞尼は東京、京阪地を巡って義援金を募り、羅災地下浄法寺を訪れ多くの金品を贈られました。

村民は痛く感激し、その得業をたたえ同尼の没後本地蔵尊を建立し、その偉業を偲びました。以前は定期的に法要を営んでいたようです。

地蔵には「大正10年9月15日 上・下浄法寺区災民一同」と記されています。

（大谷）

### 島の宝篋印塔

廃村となった松岡島（吉野地区）の字余美山という所に宝篋印塔があります。これは後醍醐天皇の皇子尊良親王の墓といわれており、一説によれば南北朝の戦いで金ヶ崎城（敦賀）で自害したはずの親王が七人の従者に守られ落ち延び、ここ島に住み、再起を願いながら亡くなったといわれています。

塔は凝灰岩製で高さ11cm、梵字が刻まれており、関西式塔で室町初期のものと思われます。永平寺町指定文化財です。（吉田静）

## 光を観る

富岡製糸場が世界遺産に登録されました。おめでとうございます。日本の近代化のさきがけ。皆さんご存知でしょうか。

70年前には永平寺町の農家でも養蚕をしていました。桑の葉採りは子どもたちの仕事でした。戦前は絹、戦後は人絹織物がまちの基幹産業でした。隔世の感です。栄枯盛衰、これも歴史です。

観光とは光を観ること。観てもらうこと。全てに明暗有り。明を観る、世の中に光を観る。日光、月光、星光の如し。

あるがままの姿を見せて歴史、風景、風物、今の生活に光を観てもらえば、町には観光資源があふれています。施設もイベントも大事です。でも最後は一人ひとりの「おもてなし」の心でしょうか。（野崎）

## こんにちは、永平寺町 観光ボランティアガイドです！

はじめまして、永平寺町観光ボランティアガイドの会です。

平成19年に発足し、現在は8年目会員13名で活動しています。私たちは、来訪者に本町の歴史や文化、産業について案内・説明しています。月一度の例会では歴史についての勉強会を開いたりしています。

全国の各自治体に観光ボランティアの会は存在しています。年に一度は北陸地方のガイドが集まり意見交換会を開き、互いに知識やガイドスキルの向上を図っています。

こしの国CATVでは、町内各地区の歴史を取り上げる「ふるさと探訪」という番組を不定期に作成しています。広報紙も発行していきますので、ぜひご覧ください！

また新規会員も随時募集しています。興味のある方は発行元の連絡先にご連絡ください。